

# 玉川大学グローバルCOE キックオフシンポジウム開催



理化学研究所の津本忠治氏を招いて行われた特別講演「脳科学が教育に示唆するもの」

玉川大学脳科学研究所を中心に、脳と心の科学の研究を行う「社会に生きる心の創成プログラム」が、平成二〇年度文部科学省グローバルCOEプログラム（学際・新領域分野）に採択されました。

これを記念して一〇月二五日、玉

川大学グローバルCOEキックオフシンポジウムが開催され、脳科学研究所のこれまでの成果や取り組みが一般の方々にもわかりやすく紹介されました。

開会の挨拶で小原芳明学長は、「約一二年前にはじまった本学の脳研究

玉川大学グローバルCOEキックオフシンポジウム  
「今求められている脳科学研究」(10月25日)

<p><b>開催挨拶</b> 小原芳明（玉川大学学長）</p>
<p><b>「玉川大学の脳研究のこれまでとこれから」</b> 塚田 稔（脳科学研究所副所長、玉川大学21世紀COEプログラム拠点リーダー）</p>
<p><b>「玉川大学グローバルCOEプログラム“社会に生きる心の創成”</b> 坂上雅道（脳科学研究所教授、玉川大学グローバルCOEプログラム拠点リーダー）</p>
<p><b>「玉川大学脳科学研究所の研究紹介」</b> 丹治 順（脳科学研究所所長）</p>
<p><b>「言語発達と脳科学」</b> 佐藤久美子（脳科学研究所教授／リベラルアーツ学部長）</p>
<p><b>特別講演「脳科学が教育に示唆するもの」</b> 津本忠治氏（理化学研究所脳科学総合研究センター）</p>
<p>閉会の挨拶</p>

は、いまでは約一〇〇名の研究者を抱えるまでに成長しました」と解説。本学では従来の脳科学の枠組みを超えて、哲学・倫理学・言語学・経済学といった人文科学・社会科学と融合し、私たちの心のしくみを科学的に解明する研究を展開しています。

こうした取り組みは、二〇〇二年にはすでに、文部科学省選定の21世紀COEプログラムに採択されました。

今回、グローバルCOEプログラム拠点リーダーをつとめる脳科学研究所の坂上雅道教授は、「人間の思考や感情をつかさどる脳のしくみを解明することは、人間をより深く理解することにつながります。こうした研究の成果は人間がよりよく生き

るために役立てることができると考えています」と語りました。

本学の脳研究はカリフォルニア工科大学をはじめ、世界トップレベルの大学・企業と共同研究を推進し、その成果は英科学誌『ネイチャー』や米科学誌『ネイチャーニューロサイエンス』に発表されています。

今後はこうした脳研究の科学的根拠を、学校教育活動に生かしていくことも目指しています。学力低下の問題や今日の教育課題の解決、人工知能ロボットの開発など、各分野への応用に期待が高まっています。

世界最高水準の研究基盤をもとに、世界の脳科学をリードする研究が、玉川の丘で進められています。